

マツリの時代～縄文時代早期後葉～

上野原台地の南東側に位置する場所では、日常的に使われた数多くの土器や石器のほか、祈りやマツリに使われたと考えられる土偶、耳飾り、パレット形土製品、異形石器など、当時の精神文化を示す遺物も出土しています。

また、対で発見された壺形土器をはじめ11基の土器埋納遺構も発見され、台地の最も高い場所でマツリが行われたと考えられています。一般的に弥生時代になってから使われるようになる壺形土器が、5,000年以上もさかのぼる約7,500年前につくられていたことも明らかになりました。

上野原遺跡で大量に出土した中の代表的な767点は、平成10(1998)年6月30日に国の重要文化財に指定されました。



左2点：異形土製品、右：土偶（上野原遺跡）【重要文化財】

異形土製品
特異な形をした土製品です。上野原遺跡では、三角形や分銅形など不思議な形をした異形土製品が見つかりました。特に三角形のパレット形をしたものは、片面が皿状に窪み、長辺に斜めに貫通した孔を一行に配列していますが、全国的にも出土例がなく、用途はわかっていません。



対で発見された壺形土器（出土状況の再現）



対になった壺形土器には何を入れてたの？

貯蔵された種子や、ヒスイなどの宝物や飾りなどが入っているのではないかと楽しみにしていたのだけど、土だけしか出てこなかったのよ。残念ね。



鹿児島の耳飾り

鹿児島県内ではこれまでに、縄文時代早期(7,500年前)の耳飾り(耳栓状土製品※)が18遺跡44例見つっています。このうち上野原遺跡や出水遺跡(曾於市)ではひもを通すような孔があげられているものがあります。また、鳴野遺跡(B地点、南九州市)のものは120gととても重たく、孔の周りにはこすれたようなあとがありました。これらのことから、「ひょっとしたら紐で耳につけたり、首からさげたりしたのではないか」という意見もあります。

上野原遺跡では、直径12cm、重さ100gにもなる耳飾りが見つっています。表面には赤く彩色したあとが残っています。これだけのものを耳たぶにつけるにはかなりの時間がかかったことでしょう。

赤く彩色したものは、城ヶ尾遺跡や石坂上遺跡(南九州市)でも見つっています。赤は縄文人が初期の頃から使っていた色の一つで、鹿児島では1万年ほど前の土器に赤く彩色したものがあります。

※鹿児島の耳飾りは、東日本よりも数千年早い縄文時代早期(7,500年前)の上野原遺跡を中心に見つっています。しかし1つの遺跡で見つかる数が少なく、小さなものから段階的に大きくなっていったことが確認できていません。これらのことから、耳たぶに装着していない可能性も指摘されています。今回の展示では、各調査報告書に依り、「耳栓状土製品」と表記しているものもあります。

耳飾り(耳栓)

ピアスのように耳たぶに孔を開けて付ける耳飾りです。土製と石製があり、上野原遺跡からは合計28点出土しています。

土製のものには、表面に土器と同じ「幾何学文様」や「渦巻文」などの文様をつけたり、ペンガラで彩色したりしたものもあり、縄文人のおしゃれ感覚や精神世界をうかがうことができます。

耳飾り(上野原遺跡)【重要文化財】

第45回企画展
上野原の時代

30th anniversary

縄文の美と技そして謎

企画展データファイル 45
2016.4.22 ~ 2016.7.3
お問い合わせ
(公財)鹿児島県文化振興財団
上野原縄文の森
〒899-4318
鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森1-1
TEL 0995-48-5701 FAX 0995-48-5704
URL http://www.jomon-no-mori.jp
E-mail uenohara@jomon-no-mori.jp

平成6(1994)年3月、完全な形の壺形土器が2つ並んで出土しました。前例のない発見であり、九州最古の土偶や国内最古・最大級の集落跡、国内最大級の落とし穴など画期的な大発見が相次いだ上野原遺跡。

昭和61(1986)年に上野原遺跡の発掘調査を開始して以来、今年が30周年を迎えるにあたり、全国に先駆けて花開いた南の縄文文化の世界を、上野原遺跡の縄文時代早期前葉(9,500年前)、早期後葉(7,500年前)の発掘調査成果を中心に、近年の県内各地の発掘調査成果も交えて紹介しています。

集落が営まれた時代～縄文時代早期前葉～

上野原遺跡で出土した土器で特徴的なものとして、貝殻文をもつ円筒形や角筒形の土器が挙げられます。また、この頃の県外の遺跡では、10軒の竪穴住居跡がみつければ大遺跡と言われていましたが、上野原遺跡では52軒の竪穴住居跡がみつかりました。また、2条の道跡、調理施設である39基の集石遺構や16基の連穴土坑、それに約270基の土坑も発見され、大規模な集落を構成していたことがわかりました。

さらに、竪穴住居跡や連穴土坑が廃棄されて自然に埋まっていく途中で、桜島の噴出物であるP13火山灰が堆積しており、このP13火山灰を年代測定した結果、約9,500年前という年代が得られたことから、それよりも古い集落跡であることが判明しました。



上野原台地の北東側に位置する地点は、「南九州地域における定住化初期の様相を典型的に示す大集落で、日本列島の縄文時代の開始期を知る重要な遺跡」として、平成11(1999)年1月14日、国の史跡に指定されました。



円筒土器、角筒土器(上野原遺跡)

石皿

石皿：木の実を磨りつぶす道具にわざわざ手間ひまかけて、きれいな形に仕上げている。これは、定住がはじまって、当時の人びとの生活に余裕ができたからなんだ。南九州では、約9,500年前の数遺跡から似た形の石皿が出土しているんだ。

左から：定塚遺跡(曾於市)、永迫平遺跡(日置市)、加栗山遺跡(鹿児島市)

展示資料データ	遺跡数	展示資料数	展示パネル数
	21	219 (一括展示含む。)	160

ここがポイント！縄文の美と技

石皿：木の実を磨りつぶす道具にわざわざ手間ひまかけて、きれいな形に仕上げている。これは、定住がはじまって、当時の人びとの生活に余裕ができたからなんだ。南九州では、約9,500年前の数遺跡から似た形の石皿が出土しているんだ。

【次回企画展のお知らせ】 第46回企画展 新発見！かごしまの遺跡2016～発掘速報展～
平成28年7月15日(金)～11月13日(日)

上野原台地の歴史

縄文時代早期

上野原台地での人々の暮らしは約 9,500 年前の縄文時代早期前葉に始まり、上野原台地の歴史の中で、約 9,500 年前と約 7,500 年前が最も遺構数や遺物量が多く、当時の生活環境に適した場所であったようです。

上野原遺跡は、最寄りの海岸から直線距離にして 1km のところに位置し、標高 260m ほどの台地上にあります。上野原台地に広がる森や草原の動植物などはもちろんのこと、海の恵みもほど近い場所にあり、縄文時代早期には豊かな生活が営まれたことがわかります。

竪穴住居跡や集石などの調理施設・道跡など約 9,500 年前の人々が生活していた大集落の跡が見つかりました。国の史跡に指定されています。



食料を確保するには、どんな工夫をしていたの？

木の実は採取したり、シカやイノシシなどの様々な動物を弓矢や落とし穴などで捕ったりしていたんだよ。上野原の人びとは、地面に穴を掘って木の実は貯蔵したり、竪穴土坑で肉や魚のくん製をつくるなど、保存のため工夫をしていたのよ。

縄文時代前期

鬼界カルデラの巨大噴火後、上野原台地で生活道具が確認されるのは、縄文時代前期の約 5,600 年前のことです。甕畑式土器をもった人々が、別々の地点で暮らしています。いずれも数個体分の土器しかなく、短期間での生活だったようです。

その後、約 5,000 年前の縄文時代前期終末の土器が少しみられるだけで、縄文時代中期の生活痕跡は確認できませんでした。



甕畑式土器

縄文時代にはどんなものも身につけていたの？

動物の毛皮や、植物の繊維を編んだ布などを身につけていたと考えられているんだ。上野原遺跡の土器の中には、底部に偶然ついた編み物の痕跡も出土しており、植物の繊維を編んだ服を着ていたんだらう。体験学習館では、アンゲンと呼ばれる編み物の体験ができるらしいぞ。

縄文時代後期

この時期で注目されるのは、動物を捕るための落とし穴が、台地南東側で約 400m にわたり東西方向に 2 列並んで発見されたことです。落とし穴は、合わせて 79 基が発見されています。さらに、土坑の壁際に小さな穴をもつ二段掘りの掘り込みが 400 基近く検出されており、ヤマイモや葛根（くずね）を掘った痕跡ではないかと考えられています。



落とし穴

早期 約9,500年前	前期 約6,000年前	中期 約5,000年前	後期 約4,000年前	晩期 約3,000年前	弥生 約2,300年前	古墳 約1,700年前	奈良～平安 (古代) 710年～	鎌倉～室町 (中世) 1192年～	江戸 (近世) 1603年～	明治～昭和 1868年～	現在
	P11 約8,000年前	アカホヤ 約7,300年前	P5 約5,600年前						P3 1470年		

縄文時代晩期～弥生時代初頭

約 3,100 年前から 2,700 年前頃の上野原台地には、再び集落がつけられました。台地北東側を中心に、竪穴住居跡と土坑が見つかります。土坑の中には炭化したドングリが入った貯蔵穴も見つかりました。また、掘立柱建物跡と 3、4 本の柱だけが直線状に並ぶ柱穴列もみられます。柱穴列は他の遺跡でも確認されていますが、どのように使われたかは不明です。



ドングリが入った貯蔵穴

水はどうしていたの？

台地をちょっと下れば、今でもこの台地の北側と南側の斜面に水が湧き出しているところがあるのよ。上野原台地は、固い岩山の上に火山灰や山土などが交互に積み重なった地層ができています。地層にしみこんだ雨水が地下水となって、岩山との隙間から湧き出すのね。川や海まで下りなくても、台地に暮らした数 10 人くらいが生きていくための水は十分足りていたんだらうね。

弥生時代～古墳時代

弥生時代には、別々の地点で生活が営まれました。台地北西側では、竪穴住居跡と掘立柱建物跡が見つかり、台地北東側では、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、環状遺構、柵跡など多数みつかります。また、古墳時代においては、4 世紀頃の竪穴住居跡が台地北東側で 4 軒、台地南東側で 1 軒みつかります。



環状遺構



古墳時代の土器

環状遺構や柵跡は杭を 20～80cm ほどの間隔で打ち込んであり、動物から農作物をまもるためにも考えられています。

古代～近世

古代の遺物は、内黒土師器や赤く塗られた土師器、それに須恵器がわずかに出土しています。中世の 15 世紀頃には、台地南東側のゆるやかな斜面に、掘立柱建物跡が 8 棟発見されました。また、台地北東側では溝状になった道跡に、桜島噴出の文明ボラ（P3）が堆積しており、15 世紀に使われていたと考えられます。出土品には、中世に使われていた中国産の古銭や江戸時代に日本で作られた寛永通宝もあります。



古銭出土状況



寛永通宝、染付など

現在



上野原遺跡を保存し、後世に残すために上野原縄文の森として整備されました。復元集落や体験学習館では、様々な体験とともに縄文人の暮らしぶりを楽しく学ぶことができます。



体験学習館では、弓矢作りや火おこし、勾玉などのアクセサリー作りなどたくさん体験メニューがチャレンジできるよ！！